

# 東南アジアにおける 学校改革の進展： 学びの共同体を中心に

齊藤英介

# はじめに

- 目的

- 東南アジアにおける  
学びの共同体に基づく学校改革  
について議論

- 対象

- ベトナム (2006年6月～現在)
  - インドネシア (2007年10月～08年9月)
  - シンガポール (2008年12月～現在)

# 私のやっていること(共通)

- 基本的には、学校で授業研究  
＝アクション・リサーチの遂行  
＝授業を教員とともに観察、省察  
→子どもの学びに焦点  
→教師の学びあいを重視

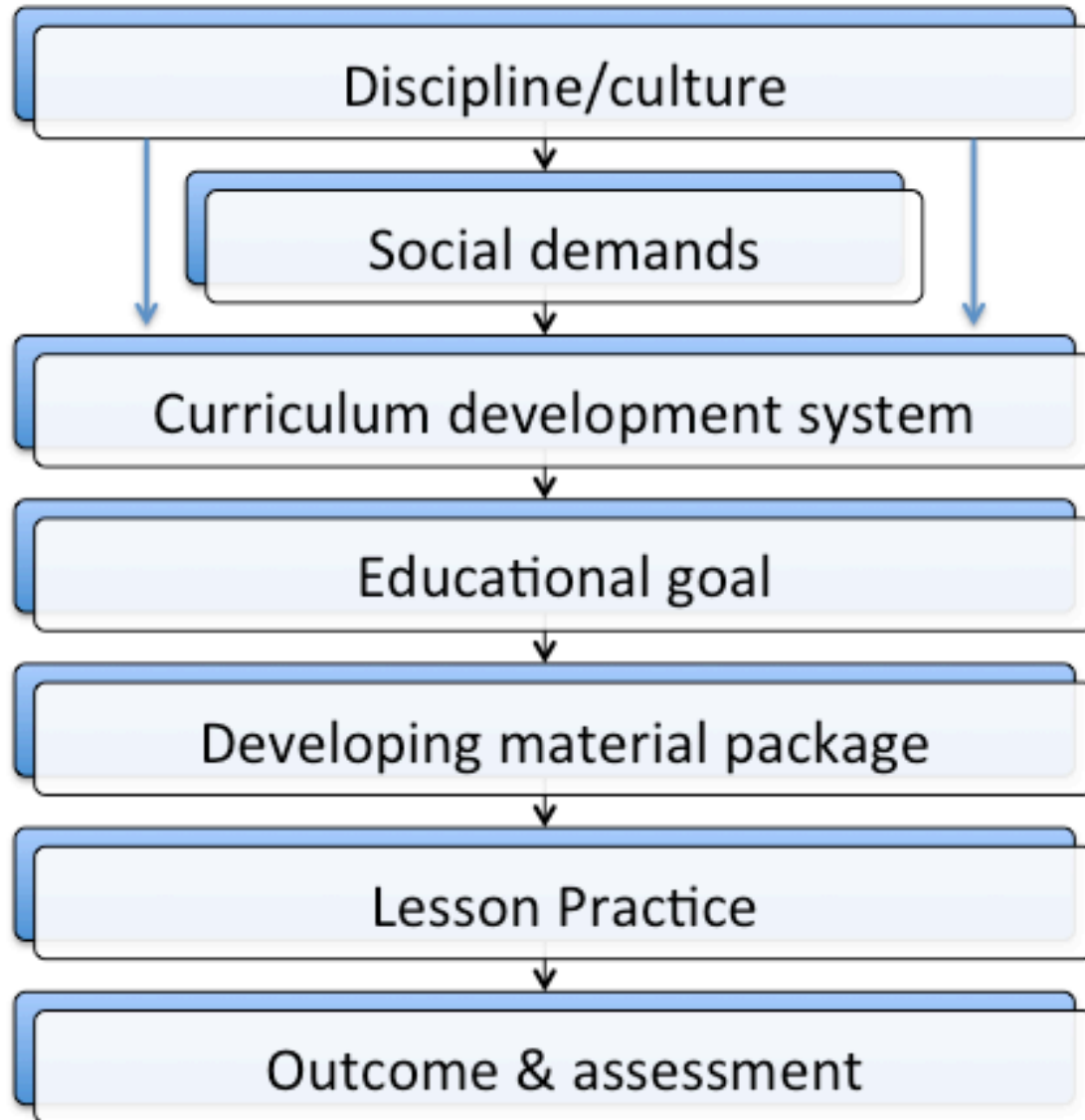
# 文脈(プロジェクト)

- 構成主義： 東南アジアの潮流
  - 「教え込み」の反動
  - 「技法」としての認知
- 民主化・社会変動と連動
  - インドネシア：スハルト体制の崩壊
  - ベトナム：資本主義経済の興隆
  - シンガポール：産業経済から知識経済へ  
海外援助・留学経験者の影響

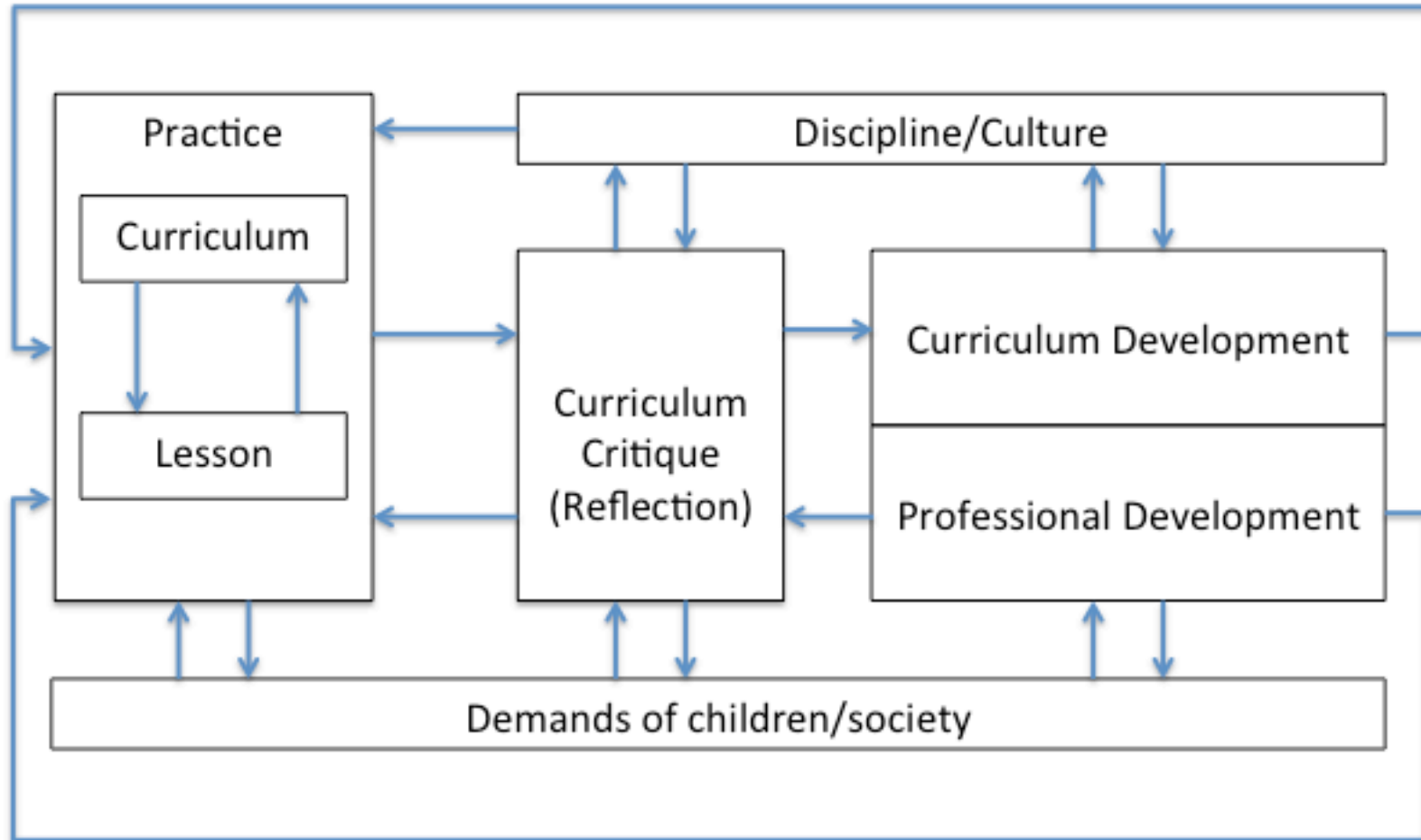
# 文脈 (カリキュラム政策の展開)

- 先述3カ国のカリキュラム:  
...他者との相互作用に基づく学びの推進  
→ より熟達した教師が必要
- **しかし**
  - 何をなすべきかが不明確  
(価値観、身体、アイデンティティ、感情)
  - 関係者の理解の不一致
  - 制度的な要因: 競争試験

# Linear View



# Rhizome View



# 困難：なかなか変わらない現実

- 「構成主義」：経験者が少数
  - 推測の中で展開
- 多くの官僚・教師：
  - 「教え方」として認識
  - 授業研究：関心は「方法論」に
    - = 子どもの学び：興味は希薄
  - 「対話」= 聴き合いが困難



# 困難（教師の恐怖感）

- 評価としての授業観察
  - 「フィードバック」、「インプット」
  - 教師のアイデンティティ: 「教える人」
    - 授業観察者の「優越性」
    - 「メンタリング」と称されてしまう
  - 既存の枠組み: 教師の評価
  - 手厳しい「非難」 → トラウマに

# 困難(開始の際の問題)

- 「学びの共同体」を理解する難しさ
    - 多くの実践者→困惑
  - 開始の方法
    - インドネシア & ベトナム: プロジェクト
      - 政府ODA案件のコンポーネント
    - シンガポール: 学校側の意思
      - 希望校の欠落
      - 教科型授業研究を「小さく開始」
- しかし「その後」の戦略は学校も不明瞭

# 困難(教育実践の変容)

- ありがちな誤解:「授業研究をやりさえすれば」  
→日々の授業改革こそが必要
- 日々の授業実践→変えるのは大変
  - 研究授業と日々の授業を分けてしまう
  - 複雑な状況を複雑と認知できない
  - 複雑な状況に対処できない
  - 「わからない」と言えない
  - 文献がない
  - 文献と実践とを架橋できない
  - 言葉、身体、心のあり方が変わらない

# Lesson Study for Learning Community

A Guide to Sustainable School Reform

EISUKE SAITO, MASATSUGU MURASE,  
ATSUSHI TSUKUI and JOHN YEO

希望：いくつかの事例

# 事例1：ベトナムの小学校

- 校長：2007年9月に赴任
- ランキング 25/25→6/25(2年間)
- 学校の政策：
  - 聴くことを通じた同僚との学び
  - 全ての子どもへの学びを保障する
- 校長と副校長：
  - 最初に授業公開
  - 「皆、発展途上」
- ビデオの使用：有効



## インドネシアの校長

「私たちの子どもはすごい」

# 事例2: ベトナムの小学校

- 2008年2月に赴任
- 底辺校(38校) → 7/38 (2010)
- 教師間で裁判沙汰
- 学びの共同体に対する反発
- 初年度: 著しく実施が困難
- 子どもについて語り合うことで信頼を醸成
- ビデオ: 教師の理解を増進



# 事例4：インドネシアの高校

- 2005年から実施
- 当初：理数科に焦点
- 現段階：全校レベルで実施
- 頻度
  - 1ヶ月に1回（1年目）
  - 1ヶ月に2回（2年目）
  - 毎週（3年目）
- 35位（45校）（2005） → 4位（2007）

# 事例5：インドネシアの中学校

- 2010年から実施
- 当初3ヶ月は実施困難
- 多くの反対にあう
- 教室の汚さ、教師・生徒の遅刻、ルーズさ
- 試験：55位（65校）（2010）→ 5位（2011）

# シンガポールの事例

# シンガポールの困難

- 希望校がない
- だが授業研究については関心が増加
- まずは「子どもを見る」ことからスタート

学びの質：いくつかのヒント

# 協同的な学びと教師の仕事

# カリキュラム構想の問題点

# ベトナムの教師が抱える課題

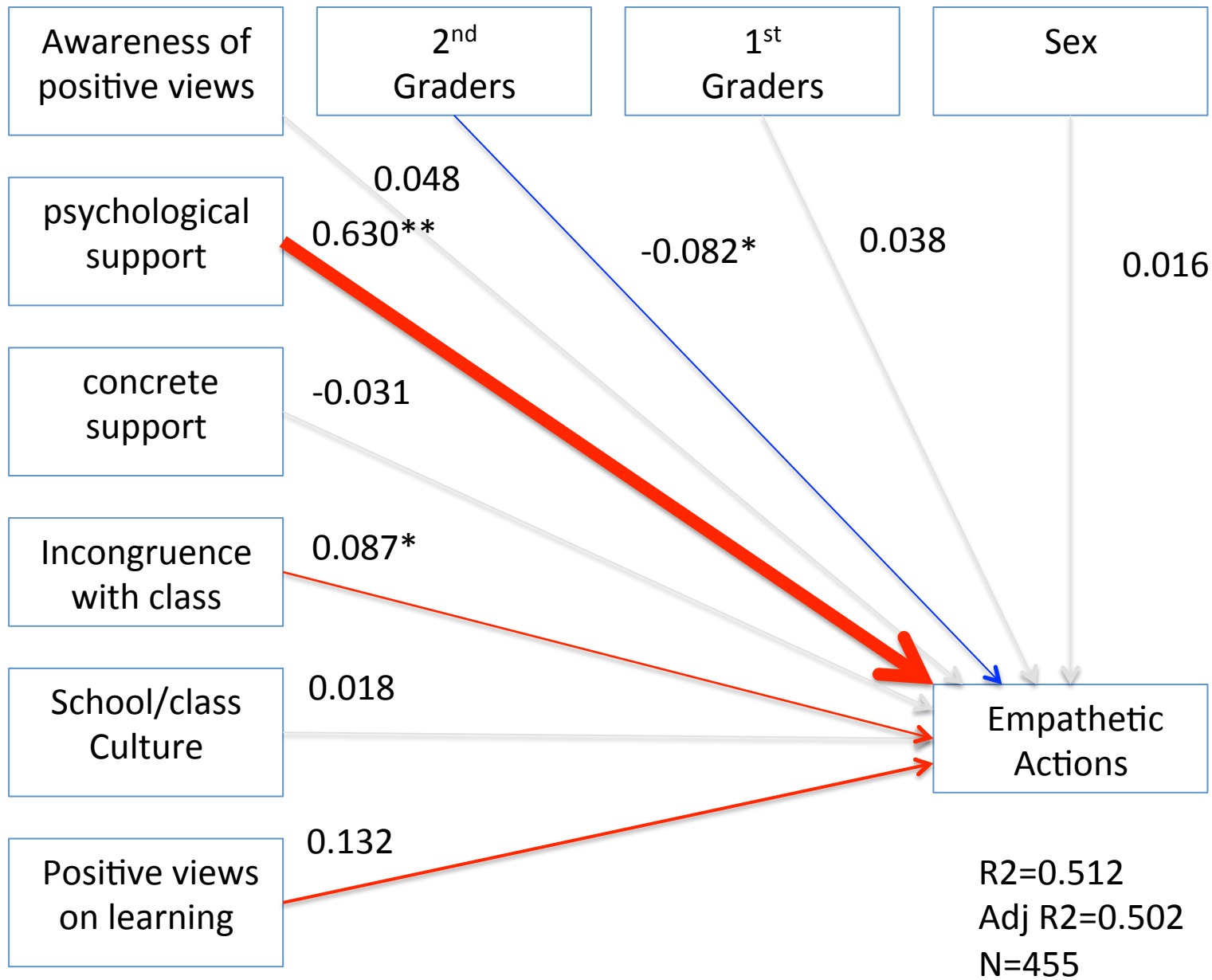
- 政府カリキュラム・教科書の墨守
- 知識背景の問題
- 地方教育行政との関係

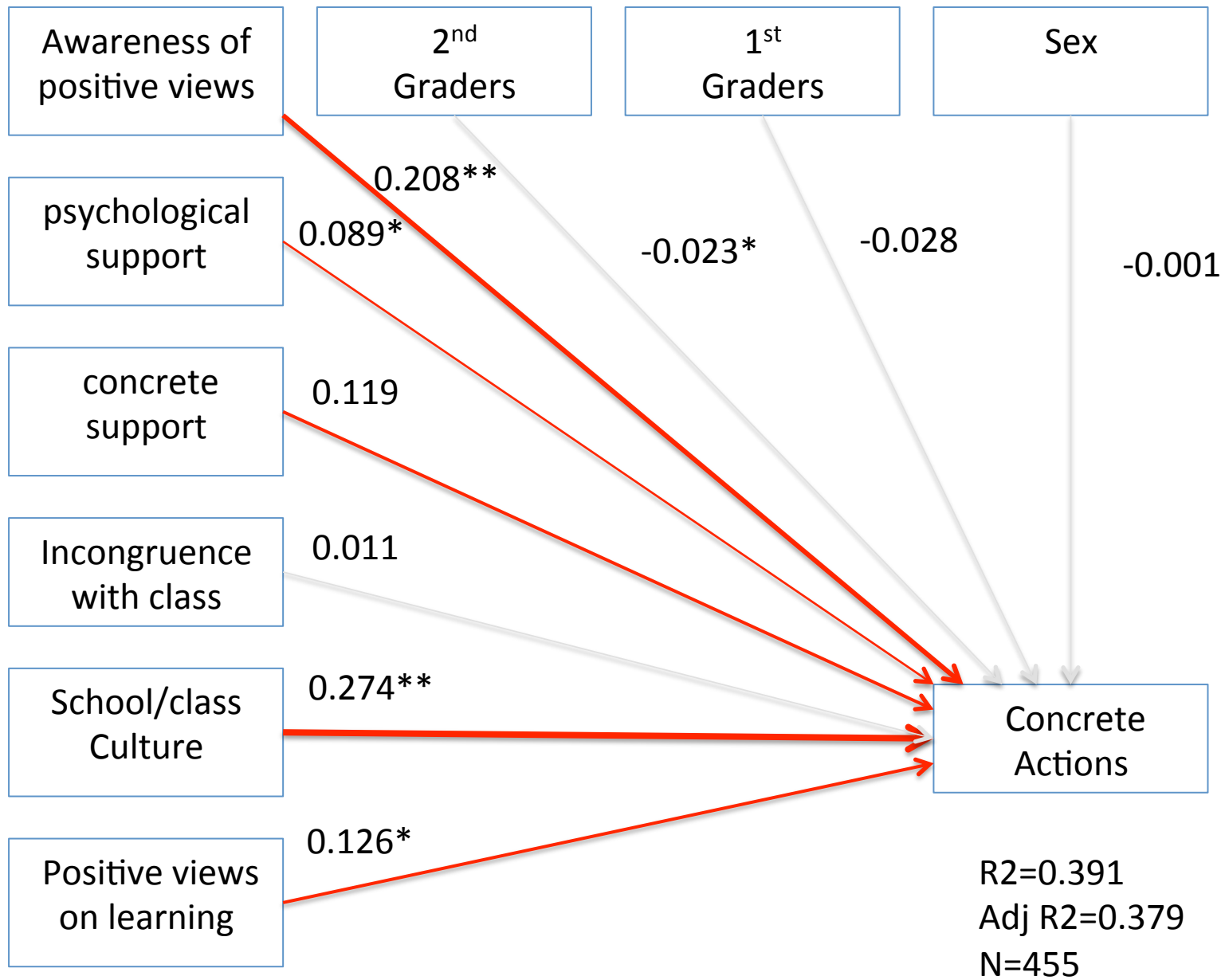


# シンガポールの教師の二面像

- 最新の理論に関する熟知
- 「書く」能力の高さ
- 「職人」性の問題
- 子どもが見えていない

# グループ学習の問題点





# ICT活用の問題点

# 問題の構造



# 子どもの敗北感

ありがとうございました